

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立東朋中学校
最終更新日		2025年（令和7年）4月1日

I 福山市	ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、 日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	---------------	---

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 ・資質・能力	○課題発見解決能力 ○コミュニケーション能力（自己効力感） ○チャレンジ精神 ○思いやりと感謝の心（地域貢献）
	○不登校生徒への丁寧な支援を引き続き継続してもらいたい。 ○地域の多様な人材を職業学習などの機会で活用してほしい。 ○交通安全や地域のボランティア活動など地域との連携を引き続き強化してほしい。	○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は92.8%（校区平均）であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は87.8%（校区平均）であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○前年度実施した標準学力調査においては、全領域に課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる
			中学校区として統一した取組等	○子ども主体の学びづくり（授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など） ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実

III 自 校	ミッション	育成する 資質・能力	課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりの心・感謝の心 (地域貢献)
	自らの考え・生き方をもち、社会に貢献できる生徒の育成	めざす子ども像	課題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える	お互いを認め、伝えあい、協力できる	工夫や努力で、成功させるために果敢に挑戦できる	いろいろなもののおかげで自分ができることを実感する
	学校教育目標	研究				
	自立貢献 ～美しい東朋 輝く東朋～					
	現 状	テーマ	学校教育目標を軸にしためざす姿の実現に向けた教育活動の実践			
	<児童生徒> ○メディアの使用時間の増加に伴って、学習時間が減少している。保護者の協力を受けながら家庭学習の支援を継続して行っていく。 ○「読書が好き」の肯定的評価は68.6%（校区平均）。「授業や休けい時間、放課後など、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館にどれくらい行きますか」において、月に1～3回以上行っている児童生徒は53.8%（校区平均）であり、読書の習慣があまりない児童生徒が多い。そのため粘り強く問題を読むことが難しく、読解力が不十分な生徒が多いと考えられる。 <授業> ○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」は90.3%、「授業内容はよくわかる」は87.5%、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」は89.8%と多くの生徒が肯定的に捉え学習に取り組んでいる。昨年度の全国学力・学習状況調査の正答率は国語51%（市平均55%）、数学45%（市平均48%）であった。また、1月に実施した標準学力調査の正答率は、第1学年国語52.4%（全国平均59.9%）、数学48.5%（全国平均56.2%）、英語43.5%（全国平均56.8%）で、第2学年国語52.6%（全国平均58.0%）、数学41.1%（全国平均49.6%）、英語37.3%（全国平均56.2%）と全国平均との差が見られた。東朋カップや学力向上プロジェクトの取り組みを生かしながら基礎基本の定着を図り、読解力の向上を全教科で目指していく。	内容等	○学校教育目標に向けた、教科で育みたい人間像の実現 ○教育活動全般を通じて育成する資質・能力の向上			
		めざす姿	学校像 誰にとっても安心安全な環境で、生き生きと学び合える学校 生徒像 自己を調整し、他者と協働し、未来を創造する生徒 教師像 教育のプロとしての誇りをもち、生徒の挑戦に寄り添い、共に成長し続ける教師 授業像 「なぜ」「どうして」を協働して解決し、「わかる」「おもしろい」があふれる授業 ○意思決定・行動のためのOODA ループ ○めざす姿・教科で育みたい人間像の実現に向けて、全教職員で共通認識をもって取り組む			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立東朋中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
2	主体的に学ぶ 場の創造と学 力向上	★	更新	自ら課題を発見し、仲間と協力して解決しようとする“学びに向かう力”の育成	・学期ごとに生徒アンケートを分析し、授業改善に取り組む。 ・各種調査の結果を分析し、全教職員が授業に取り入れることで、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組む。 ・生徒が自ら目標を決め、自ら学ぶ場を創造する。 ・図書館の利用を活性化する。 （第三次福山市教育振興計画より） ・教職員がICTを授業の中で効果的に活用する。 ・学力向上プロジェクトおよび東朋カップの取組を推進し、基礎学力の定着を図る。	・「授業で、新しいこと知ったり問題を考えたりすることが楽しい。」と「授業で、友だちの考えを聞いたり友だちと話し合ったりすることが楽しい。」90%以上 ・全国学力学習状況調査 市平均以上。標準学力テスト 全国平均▲5以上。 ・英語BA 各学年50%以上。各種検定年間延べ400人以上。 ・「本を読んだり、借りたりするために、学校図書館どのくらい行きますか」月1回以上の生徒85%以上 ・「考えをまとめ発表する場面」でICTを活用するようにしている」90%（教職員アンケート） ・「授業では、自分にあった考え方、教材（授業プリント等）、学習時間などになっていましたか」90%以上（生徒アンケート・第三次福山市教育振興計画より）								
2	自己肯定感・ 自己存在感の 向上		継続	一人ひとりの承認欲求が満たされる集団づくりの推進	・係活動や教科係の役割を担うことで、学級内での居場所をつくり、自己効用感を高める。 ・全教員が各生徒への肯定的評価を積極的に行う。 ・生徒会を中心として生徒が企画・運営する活動を増やす。 ・不登校対策担当教員を中心に、不登校生徒対応を充実できる。	・「学級内では、お互いの考えや意見が認められていると思う」95%以上 ・「先生は、自分のことを見てくれている」95%以上 ・不登校生徒の割合が前年度市平均以下（諸君観察計表） ・不登校対策会議を月1回以上もち、子どもの変化をいち早く把握・共有・対応を行う。 ・月1回程度、保護者（世帯）が学校に来られる取組で設定する。（開かれた学校づくり）								
2	地域・保護者から信頼される学校づくりの推進		更新	生徒・保護者・地域の学校満足度の向上	・一人ひとりの心に寄り添った生徒、保護者との相談体制や学級、学年の情報提供の充実を図る。 ・1日の時間外勤務時間を2時間以内にするように自己管理を徹底する。 ・働き方改革につながる教育課程の編成と運営 ・職員Q－Uの実施 ・地域への情報発信と交流を行う。	・HP、Classroomを用いた情報発信 ・「安心して通っている」生徒100% ・「安心して通わせている」保護者100% ・勤務時間外在校時間が月45時間以内の教職員100%。年間360時間以内85%以上。 ・「仕事にやりがいがある」100% 「授業づくりなど学校内の活動について、失敗を恐れずに挑戦することができている」100%（第三次福山市教育振興計画より） ・「地域に貢献している」生徒80%								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。